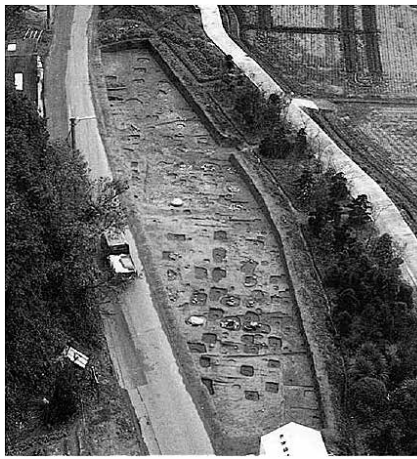


明日香をさぐる

雷丘東方遺跡の調査のあゆみ

今回は雷丘東方遺跡から「小治田宮」と書かれた墨書土器が発見された経緯について紹介します。



『日本書紀』によると、雄略天皇が少子部栖輕に命じて捕らえさせた雷神がおちた場所との伝説のある雷丘は南北に延びる北丘と南丘から構成されています。雷丘周辺からは庭園遺構など宮殿に関する遺構の存在が予想されました。

1970（昭和45）年に北丘の東

側で行われた道路拡幅に伴う調査で南北七間、東西四間の庇付大型掘立柱建物を含む7世紀後半から9世紀前半までの遺構が検出されました。1987（昭和62）年には南丘の東側で村道拡幅が行われ、その際、井戸が検出されました。井戸は南北4・8m、東西4・5mの方形の掘り形に一辺1・68m、深さ2・4mの井籠組にして井戸枠を重ねて据えています。

井戸枠はヒノキ材で8段分残存しており、井戸の内部には補強したとみられる隅柱が4本存在しています。井戸の底には玉石が厚さ10cmの厚さで敷き詰められています。この玉石の直上から土師器の外面に「小治田宮」「小治宮」「副

「福嗣」などと書かれた墨書土器が出土しました。

『続日本紀』には淳仁天皇が平城宮を改修中に小治田宮を仮宮と定め、諸国の調庸物を収めた記録があります。765（天平神護元）年10月には称徳天皇が紀伊国への行幸途中に小墾田宮へ立ち寄っていることから雷丘東方遺跡は、奈良時代の小墾田宮（小治田宮）であったと考えられます。

〔明日香村教育委員会文化財課〕

国宝キトラ古墳壁画北壁「玄武」 公開のお知らせ

◆国宝キトラ古墳壁画の公開（第34回）

【期間】 2月16日（日）まで

【場所】 キトラ古墳壁画体験館四神の館 1階
キトラ古墳壁画保存管理施設
（国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区内）

【公開壁画】 北壁（玄武）

【応募】 「国宝キトラ古墳壁画の公開（第34回）」
事務局

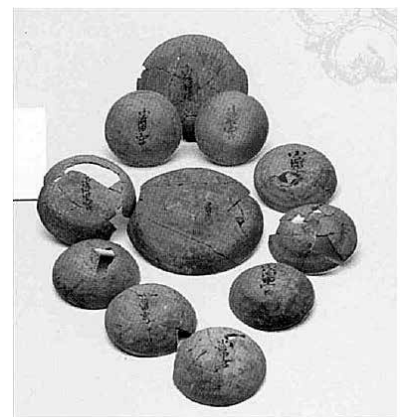
【問い合わせ】

☎06-6281-3060

事務局公式HP <https://www.kitora-kofun.com>

※事務局にお電話いただくか、HPからご応募ください。

※当日受付もありますが、事前申込で定員に達している場合は行いません。



雷丘東方遺跡出土墨書土器